

あゝや

第九号



10円



「写真説明」九月十四日風水害慰問のため御來廳の三笠宮殿下
上——市長室にて御休憩
下——本廳前にて市民に御挨拶





銀^{イテ}杏^{コウ}葉

ゲエテ

★

東洋の国よりわが園に
移されしこの樹の葉ぞ
知者を喜ばす
貴き意味を秘めたる

★

そは自らを分たれし
一の生体なるか
はた又一と見らるゝを
自ら選ぶ二なるか

★

この間にこたうことこそ
まことの意味を知るものぞ
君さとらずやわが歌に
われ一にして二なるを

(西田増蔵訳)

一、一般的な問題

戦前においても大きな貿易外収入として重要な産業であつた日本の観光事業は、戦争を放棄し平和な文化國家として國際社会に復帰しようとする敗戦後のこんにち、改めてその重要さが喧傳され、観光A B、観光X Y Zなど観光事業についての深い省察もなく観光を看板とするものが増加したことは戦後の新しい流行のひとつである。

敗戦後におけるわが國の観光事業は、長い間の戦争によつて國際的信用を失つた日本人の誠意を美しい國土と獨特の文化を通じて全世界に認識させ、「見えざる輸出」として荒廢した國家を再建する大きな形成的課題であつて、新しい日本の文化的建設という國土的要請に基づく遠大な抱負とそれ／＼の地方にふさ

懸賞論文第一席人選

観光芦屋の構想

佐藤俊夫

× わしい細心の計画によつて構想されなくてはならない問題である。

京都、奈良のような海外にもよく知られた豊かな観光資源を持たないにしても、國際觀光港神戸に近く、準國

立公園候補六甲につらなり、日本でも有数の美しい住宅都市として成長した芦屋の観光都市としての構想も、只觀光施設の誘致や建設によつて市財源の拡大をはかる流行病的な企圖からではなく、この観光事業の本質に根ざし芦屋自体の特質に対する深い反省に即して考えられるのでなければ、せつかくの計画も空轉して貴重な資金資材の浪費とならないとはいえない。私はこの小論をこつた理論に導かれ乍ら芦屋が観光都市としていかにあり、またあるべきかの可能性と、その具体化の人的問題としての教育、物的な問題としての計画、施設について重点的な國際觀光事業の面から考えてみたいと思う。

第一のもつとも根源的な問題は観光の傳統をもたない住宅都市としての芦屋が、はたして観光都市でありまたあり得るであろうかということである。これはいゝかえれば芦屋が観光都市となるためにはどんな條件が必要であるかということである。私はこれを観光事業の基礎理論によつて附表第一に展開したが、この表で明らかになりに現在の芦屋は常識的にいつてすぐれた観光都市たるにはほど遠いことを認めないわけにはゆかない。

しかしながら、「先般日本を視察したアメリカ國立公園局長リチー氏も「海外觀光客は日本の生活様式をたのしむために来て、日本人そのままの生活をしてみたいと思う」といわれ、また最近のアメリカ觀光客の世論調査（ニューヨークタイムズ一九四九、一〇、三〇）によると旅客が旅行中關心をいだいたものとしては、風景が二十五％、建築物が十六％、博物館が十四％、劇場、音楽會が六％、夜遊びが二％に比べてツーリストの二十八％までが先づ第一におとつれた先の國に住む住民そのものに興味を感じているということである。観光客の興味が風景や史跡よりその地方の住民や生活にあることを思うと、私はこの住宅都市芦屋が住民や生活を基調とした観光都市たり得ないものであろうかと考える

にいたつたのである。事実、六甲を背に、大阪灣の風光に面した美しい自然の中の住宅の數々は、震災によつて灰燼に歸した大都會に出來たバラック住宅に比べればひとつの歴史的モニュメントであり、そこに住む中流実業人と、文化人の知識層を自負する人々と平和で明朗な環境に営まれている生活は新しい意味での観光資源であるといえよう。それだからといつて芦屋がそのまますぐれた観光都市であるわけではなく、附表の対策に示したような諸種の施策が必要なのは当然である。

このうちには(9)及び(14)～(17)のように純粹に觀光開発の問題もあるが、(2)の砂防、河川改修、林野復舊のように建設省又は兵庫縣の管轄に屬する國土計画の一環をなすもの、(3)の植樹、(7)の建築、(9)のうちの道路、(10)の交通など一般的な都市計画、(12) (13)など社会的經濟的的政治的な諸問題もあつて劃一的に論ずることは出來ないけれども、いづれにせよそれらすべては新しい日本の文化的創造という観光事業の理想のために、そしてまた市及び市民の文化的經濟的向上という市発展の理想のために構想されなくてはならないのである。

- みだし
- 一、一般的な問題
 - 二、人的な問題
 - 三、物的な問題

二、人的な問題

純粹に観光事業的な開発の問題は人的なものとの物的なものに大別して考えられるが、グリユックスマン教授が「観光事業概論」に、観光事業を外來者と外來者が滞在する土地の人々との交互關係として人間關係の總體であると説かれたように、観光事業の基礎をなすものは人間である。前章のアメリカ観光客の世論調査でもあきらかであるが彼等の旅行中の興味は住民にあり、美しい人情と暖い心がなくてはどんな風景も施設も冷い死物にすぎないということはお觀光にたずさわるものの常識になつてゐる。そうして觀光地がすぐれた觀光地として発展するためには觀光接遇に従事するもののサーヴィスがよく、觀光に關係するものが努力するだけではなく、その地方の住民のすべてが觀光に深い關心をもつていなくてはならない。觀光芦屋の建設というところが、芦屋の発展にとつて重大な意義があるという市民各個人の自覺によつて市民全部のभीりあがる意欲にさゝえられた世論であるとき、觀光芦屋建設の具体的問題は對内的にも對外的にもきわめてスムーズに運ばれるし、世界の觀光客は 스위スと同じように何処を歩いても氣樂で全体が渾然としてたのしい氣分を味わうことが出来るのである。

しかしながら、観光事業は時として各種の觀光地で見られるように、その地方の住民の精神を物見遊山客相手の娯樂の根性に低落させる危險性を有している。芦屋を訪れる觀光客に市民のすべてが心からのサーヴィスをして、市民を敗戦後の一部の日本人が連合軍にしもしたような醜い乞食根性におちることなく、これら外國人との接觸により日本民族獨特の文化藝術を通じて日本人の誠意、文化國日本の眞の姿を世界の人々に紹介し全世界に認識させることはきわめて難かしいことである。殊に芦屋の特質をいかして、住民と生活をテマとした觀光文化都市を建設するためには、市民に対する觀光觀念の普及は必要不可欠からざる問題であり、施設の建設とちがつて大した資金も資材も要らず、すぐ明日から実施でき、またしなくてはならない觀光開発である。

觀光觀念の普及は觀光特殊教育、一般市民教育、学校教育により行うこととしたい。觀光特殊教育は、觀光専門家による、觀光講座の開設、觀光關係者相互の研究會、關係者の他研究機關派遣留學、他觀光都市の見學など觀光に關係するものすべてに對する教育と、ホテル其の他各種觀光機關の男女接客係員を觀光學園、ホテル學校などに入学させて実習訓練を受けさせる接遇専門教育とする。

觀光を市民の世論とし、市全体をすぐれた觀光都市とする

るために大切なのは一般市民の教育であつて、芦屋市のよりに知識層が多いにもかゝらず、市政に無關心な市民の多いところでは特に重要なことである。これには市公報、壁新聞、ポスターなど弘報機關を最大限に利用するだけではなく、月一回くらいアート紙のグラフ印刷で氣の利いた編輯の芦屋觀光ニュースとでもいうような觀光専門紙を発行し、音楽や映画などを効果的に使つて思ひきつた企画の市民講座、觀光の夕べを催して一般的な觀光の理念、觀光芦屋建設の意義とその計画の経過、觀光客に對する心得などを実情に即して誰にもわかりやすく興味をもてるように解説普及するようにしたい。

更に有志市民の徹底的な教育のためには交通文化クラブのようなものを組織するのも一案である。これはフランスツーリングクラブをモデルとしてつくられた京都ツーリングクラブにならい、外客接遇に必要なエチケットを研磨し、會員のもつ知識利便をわかちあひ、會員の家庭に正しい社交の機会を提供して、民間団体として觀光客の受人態勢、主として接遇の充実に貢獻しようとするものであつて、市及び觀光協會は全日本觀光連盟、日本交通公社、海外交通機關と連繫してこのクラブを強力な有意義なものとして推進すべきであらう。

將來の芦屋市民であり感受性に富んだ青少年の教育もま

た重要である。幸いにしてこの方は最近文部省の教材に觀光の問題が大きくとりあげられているから、それと芦屋の觀光とを有機的に關係づけて教育するより市内の小學校、中學校、高等學校に要請して、國際人としての教養、國際的なエチケットを子供のときから習慣づけるようにし、社会科教育としての現地教育、交通文化クラブに準じてもつと教育的内容の大きなジュニアクラブなどによつて觀光教育を徹底するようにしたいと思ふ。

こうした觀光教育が、空虚なかけ声や当事者のひとりよがりではなく、觀光事業の本質に對する認識と本當に芦屋をすぐれた觀光都市として発展させたい情熱に導かれて、もつとも効果的な方法で市民のひとりひとりにまでしみこんでいつたとしたら、芦屋は中途半端な觀光の傳統がないだけに、人間的には 스위ス、イタリーにまさるとも劣らないたのしい觀光地として発展することも決して至難ではないと考えるのである。

三、物的な問題

或る地方の觀光資源がその國の觀光事業において存在の意義を主張し、その地方の発展に力を致すためには世界にたらなる大きな抱負と將來への遠大な計画によつて開発され、その土地との有機的な深いつながりをもつて総合的な

観光芦屋の構想附表

観光芦屋建設のためにどんな条件が

		条件	
資源的要件	自然的要素	1	天候気象状態がよいこと
		2	風景がすぐれていること
		3	動植物が豊富なこと
		4	温泉があること
		5	観光基地に近いこと
	人文的要素	6	めづらしい史蹟、風俗、行事があること
		7	すぐれた建築、庭園、工芸があること
		8	交つた傳説、方言、人情があること
	施設的要素	9	宿泊、交通、体育、慰樂、文化、勸業の施設が適切に建設運営されていること
基盤的要件	社会的要素	10	観光基地との交通が便利なこと
		11	観光地帯と連繫していること
		12	観光施設を經營するに充分な經濟状態であること
		13	観光地とした適した環境であること
	理念的要件	14	観光に關する法規組織が整つていること
		15	公共團體、私經濟、住民が観光事業に協力的であること
		16	接遇に従事するもののサービスがよいこと
	17	観光宣傳が適切に行われること	

必要か

現在の芦屋	將來の対策	
夏涼しく冬暖かで氣候溫和である	(植樹で補うことが出来る)	1
六甲山系を背に大阪灣に面して変化はあるがスケールは小さい	砂防、護岸、山火事防止、造林によつて風致保存に努める	2
動物は見るべきものがない	禁猟を徹底して繁殖をはかる	3
マツ、サクラは比較的多い	植樹、綠化運動を奨励する	3
ない	(有馬温泉と提携する)	4
神戸港へ 12軒、大阪市へ 20軒 (伊丹飛行場へ 16軒)	人爲的交通を便利にする	5
岩ヶ平古墳群、親王塚等があるが観光價値は大きくない	観光價値となるよう開発する	6
歴史的、藝術的價値あるものはないが高級住宅はひとつのモニュメントである	住宅建築附屬庭園、私有工芸を観光事業的に開発する (詳説) 三	7
「芦屋のうない乙女」のほか交つたものはない	人情を(15)(16)に關連させる (詳説) 二	8
國際ホテル(接收中)二、三のクラブ以外ない	ホテル、ドライブウェイ、スポーツセンター、ヨットハーバー、クラブハウス、ユネスコ会館、生活文化センター手藝工房を建設する (詳説)三	9
神戸港、大阪、京都への交通機關は最高度に発達している	観光バス、貸自動車を運行して万全を期する (詳説) 三	10
六甲准國立公園の一環である	10と關連して緊密にする 三	11
可能性あり	市民、実業人の協力をまつ (詳説) 二	12
健康明朗な住宅都市である	純化する (詳説) 二	13
観光課、観光協会あり	強化する (詳説) 二	14
可能性あり	各種教育により観光觀念を普及する (詳説)	15
(將來の問題である)	観光協会などで教育する、他に派遣する	16
	美術協会、ベンクラブ、知識人の協力による	17

企図のもとにいろ／＼の施設が設計建設されなくてはならない。しかしながら、それは戦災復興、住宅建設などなすべきことの多い敗戦日本の現状において、大規模な土地開発や、ぜいたくな観光施設の建設を急ぐのではなくて、それ／＼の地方の主体的客体的な実状特質をいかして在來の資源（施設を含む）を利用し差當つて簡単なことから着手すべきであつて、観光芦屋の建設も美しい風光に恵まれた健康住宅都市としての主体性と、六甲山麓、阪神間にしめる有利な宥体性において、人的観光開発としての教育と相並んで手近なことから始められなくてはならない。

そこで私は先ず理想的な健康住宅都市と明朗な観光文化都市の合一であり、直接に市の発展、市民の幸福につらなつてゐる一般的な都市計画から考えたいと思ふ。

観光を基礎とする都市計画は、徹底した都市美化にあり、それはあらゆる場所に樹木を植える緑化計画から出発する。樹木はいうまでもなくそれ自体風景美の根幹をなすものであつて、夏は涼しい木陰をつくり冬は暖い風よけとなり、すさまじい風をやわらげ、砂塵を防ぎ、噪音を防止し人の氣持を豊かにするばかりでなく、氣候を改善し新しい風景を創造することも出来るのである。芦屋は他都市に比べて樹木の多い街ではあるが、山、海岸、川岸、戦災地帯はもちろんのこと公共のもの、個人のものを開かずあら

の根幹として出来るだけ舗装した広い直線で、観光、住宅、行政、商業の生活、文化圏を有機的に連繫するよう構築されなくてはならない。

上下水道の完備、水洗便所の普及、ゴミの処理、狂犬病の予防など衛生設備も観光都市として大切なことである。観光都市の建設は観光施設の計画なしには完全なものではないことはいうまでもないが、観光施設とは只わけもなくホテル、ゴルフリンク、ドライブウェイをつくることではない。文化的創造としての観光事業として、観光都市には深い知性が流れていなくてはならない。

世界的な観光都市としてパリがいつまでも世界の観光センターとして外客をひきつけているのは、單なる世俗的なアミューズメントや只美しく面白いからではなく、長い間の文化と傳統とがつくりあげた深い知性が至るところに充溢しているからにはかならない。文化にはパリ、ナポリ或いは京都、奈良のような歴史的文化もあり、現在ニューヨークの現代的文化もある。現在において最大のツーリスト送出国であり、日本観光事業の得意先であるアメリカ人にとつては、死んでしまつた過去より生きてゐる現在の方がはるかに彼等の氣分にピッタリすることも注意すべきである。そこにおいて私は観光文化都市芦屋の観光施設として生活文化観光センターとレクリエーション・スポーツセ

ゆる建築物、ドライブウェイ、散歩道、汽車電車の線路などあらゆる交通路の周辺に樹木を植えて全市を美しい緑で包むようにしたい。

そのためには風景学、林学、造園の權威者の意見を集めて先ず統括的な都市緑化計画を立て、毎年四、五月頃全日本観光運眼によつて行われる緑化運動に呼應して全市一せいに植樹するのもよいし、建物の新築の都度何本かの苗木を市があつ旋して植樹を奨励するのの一策であらう。

緑化計画とともに、公園も出来るだけ多くつくつくりたい。それも只の公園でなく、簡単な動物園、兒童図書館、綜合遊園などの設備のある文化公園、細心な管理によつて人為的なものでありながら、人工のあとが見えないような自然公園、川、池、海をめぐる水辺緑地、ドライブウェイに併行して、しかもそれから離れた静かな林間の逍遙路など、多角的な変化のある配置で、要所に利用者のための休憩所、ベンチ、チリ箱を備えておくようにする。

市役所、郵便局、駅、会館、個人の住宅などすべての建物とポスト、巡查駐在所、公衆便所、廣告板、屋外照明、街路灯などあらゆる路上の工作物は観光技術家協会の規定に理解のある専門家により設計され、それ自体観光目的に役立ち、それ／＼の風致にふさわしく建築されるべきである。街路は單に交通の用に充てられるのみでなく都市構成

センターの建設を提唱したいと思ふ。

生活文化観光センターとは、ストックホルム郊外にあつてスウェーデン各地特有の風俗の家族がいてその地方個々の方法で観光客をもてなすスカンゼンミニージャムのようなユニークな観光施設として芦屋の生活文化観光都市の理想具体化したものであつて、市内の日本の建築を主とした邸宅の座敷、茶室、調度、庭園を純化し、しかもそれに暖房、防虫、洋式水洗便所などの近代的衛生施設を完備して茶道、華道、美術工藝、音楽舞踊などの純日本の藝術文化、風俗を純日本の雰囲気の中に日本人の傳統と現代の日本人の生活の風土的（地理的）歴史的、民族的関連性に機能づけて外人に紹介する機關としての施設である。そこでは美しい着物を着た女性たちによつてそれらが実演されるのみではなく、正月の飾り、三月のひな人形、五月の武者人形、七月のたなばたなど日本の家庭の行事がいつでも見られ、また希望に應じては結婚式も実演されるような徹底した日本風俗の生きた博物館であり、席画、シシエウ、人形造り、竹細工、打出焼、ローケツ染など各種の手工藝の市内外の工藝家、一般婦人による製作実演と即賣の施設もあり、スキヤキ、テンプラで灘の銘酒が味え、宿泊の設備もあれば申し分がない。こうした施設は單に洋式ホテルやゴルフリンクをつくるのとは比較にならない難しい、

問題ではあるが、さし当つては試験的に市内の阪神國道から入りやすい邸宅の一、二でこの企画の小規模なものを実行してみるのも一案であつて、A・P・Lの世界一周船、太平洋航路船で神戸に一時上陸する観光客に手軽に日本の家庭を見せたいのはわれわれも外人騎旋に従事するもの切実な希望である。

將來の多角的なスケールのセンターとしてはいふまでもなく一軒の家では不充分であつて、六麓莊、山芦屋、山打出一円をこうした數軒のマンションを中心に、生活文化観光地域として美化し、阪神國道からそこへ行く道路と地域内のいたるところに松、櫻、ケヤキ、楓の木と四季の草木を豊富に植えて、四季を通じた花園としたい。

これらはその地域全体を只日本的な建築と様式で統一するのではなく、同時に洋風の應接室、テラスのある中流住宅も混ちえて、現在のありのままの生活も営まれていて、本当に生きた日本人の生活を外人に見せたいと思う。そのためには各種技藝民俗の専門家、観光接遇の経験者がマンションの仕事を従事するだけでなく、前章の市民教育や交通文化クラブの組織を徹底して市民の協力を得ることが必要である。

こうした施設は、美しい住宅都市として芦屋の知識人を自負する市民の資質を活かした日本ではユニークな存在と見られる。豊富な庭があつて自然の風光に調和して陽光を充分とり入れるガラスばりのテラスの多い構造で、簡素ではあるがすみよ／＼まで清潔で、従事員の訓練の行届いたビーチハウスの延長としての、気軽なシー・リゾート、スポーツホテルをつくり、そこには、テニスコート、バドミントンコート、ちよつとしたゴルフや乗馬など陸上スポーツの設備と、明朝で靜かで上品なカジノを附屬させることにしたい。

芦屋浜に予定されている水族館も、そのヨットハーバーの附屬施設として、從來の水族館のような陳腐な博物館的構成ではなく、海底そのままのような大水槽の中を、観覧者は水底のガラスの廊下から見ようと思ひきつた構造で、どんな人にも面白く世界の海の生物の生態が、自然のままのすがたで観察出来るような企画で設計され、併せて志摩半島の眞珠、高知のサンゴ、其の他各地の実用的な貝製品など、海に關係ある物産工藝の加工実演と、即賣ルームも併設することとした。

これらの観光施設と市内交通の要所とは完全に舗装され道標、注意記号、ルートナムバー等の諸標識（夜間の認識を容易にするためブリズモ、スコッチライトを使用する）が完備して櫻、柳などの美しい並木で飾られた観光道路で結び、消音暖房装置付ディーゼルレリア（後）エンジン、ガ

して、観光客を吸収することが出来るし、そうした世界の人々との交歓は、國民外交として國際親善の一助となり、市民の國際的教養を高める契機となるばかりでなく、マンションの経営や家庭婦人の手工藝生産による經濟的意義も亦大きいと考へる。

しかし乍ら観光客を長く芦屋に滞在させるには、こうしたためづらしい観光施設だけでは不充分であることはいふまでもない。われわれはスウイスが世界の観光の中心でありまた終点であることに思ひを致すべきである。敗戦後の日本の観光事業を、スウイス的なものとするか、モナコのものにするかは観光事業界で論争されたものであるが、靜かな健康住宅都市として明朗な觀光文化都市を志す芦屋の觀光事業は、やはりスウイス的なものであるべきであらう。

この施設としては既に計画されている打出浜の國際ヨットハーバーを中心としたものが考えられる。これは海の施設としてスウイスのような標高の高いところの施設とは異なるものではあるが、「自然と戶外スポーツに配するに行届いた文化施設」をもつスウイスには学ぶべき多々がある。

國際ヨットハーバー自体の計画は、既にいろいろ考へられているではあるが、そこにはヨット、ボートのほかスカーフ、モーターボート、水上スキー及びディゼルエンジン付の三〇〇トン以上の大型ヨットも設備し、芝生、草花ラス窓の大きな観光バスを購入し、最新型輸入乗用高級車の拂下げを受け、運轉手なし又は運轉手つきで、時間貸しして市内の観光のみならず他観光地、観光都市への観光貸自動車事業も有望である。

これら観光施設の建設資金は國庫又は縣の全面的出資、補助金交付の利用、國庫資金の借入、海外資本の導入、市と外部團體の共同出資、観光会社の設立、観光宝クジの発行、一般市財源よりの出資などいろいろの方法が考えられるが、いずれにせよ目前の利害にまどわされることなく、本當の市の發展のための大局的な立場から、市及び市民の文化的經濟的生活の向上となるような方策によつて調達されなくてはならない。すなわち理想としては市と市民の共同資本で市自体の施設として建設されることが望ましいが、芦屋市の現状では困難であるから、外部資本によつて行うことはやむを得ないとしても、あくまでも市から全く遊離した存在とならないよう注意すべきである。

かくして建設され經營される観光施設や觀光事業全般の指導監督は、あくまでも計画性のある一元的な組織によつて行われなくてはならない。市行政としての企画部觀光課、市内觀光關係者による觀光協會のそれ／＼が、強化されることも必要であるが、市当局、市民、市以外の廣汎な観光の専門家によつて芦屋地区國際觀光委員会というよう

な諸間機關を構成して観光に關する市條令の制定、外部團體との交渉、観光事業全般の運営、観光宣傳の統一実施などに遺憾のないようしたい。

観光芦屋の対外宣傳も、この文化都市にふさわしい斬新な方法で市内外の美術家、文藝家、知識人の協力によつて、藝術性のあるポスター氣のきいたパンフレットを製作して、外客を誘致するとともに、神戸、大阪、伊丹（將來商業國際空港となつた場合）の観光基地、準國立公園六甲、その山麓一帯の各種観光地帯と有機的な連繫をもつて推進するべきである。

観光事業に直接關係のうすいと考えられる催しや施設も、それが観光地で行われる限り重要なものであつて、その意味からいつてこのほど市内文化人によつて計画されたユネスコ特別都市が観光芦屋における意義は大きく、會館、図書館、美術館、研究所を観光施設計画と統合して設立し、また私案としては、朝日ヶ丘の地形を利用して夏はハリウッドポールのような大野外演奏会場となり、冬は人工スケート場としてホッケー、氷上バレーの出来るような円形劇場、阪神に仕事をもつ在留外人と中流文化人のための、思い切つて近代的な構造と合理的な設備のモデルアパートなど一般的な施設が建設され、さらに深江雷川西工場跡に水上陸上の大型旅客機が発着出来る國際空港を誘致し

「観光芦屋の構想」入選発表

応募者各位に深甚の感謝

★観光懸賞論文★

今春、芦屋地区観光協会において「観光芦屋の構想」なる課題のもとに、懸賞論文の募集をひろく世人によびかけたところ、たちまち大きな反響があつて、二十数篇の応募があつたことは衷心より謝意を表する。この多数の論文は、いずれも長所があり、取捨選択に非常な困難を感じたが、結局そのうち最も優秀な作品七篇をとり、さらに、そのうち二篇を入選作とした。しかしながら選外に落ちたものゝなかにも、傾聴すべき意見、輝やく創意は隨處に発見し得るので、市当局においては、今後市政の運営企画に當つて、永く經典として参考とすべきである。この意味において、応募者各位に対し、重ねて深甚の感謝の意を表するものである。

入選者

第一席 賞金 一万円贈呈 武庫郡本庄村深江札場通一

第二席 賞金 三千円贈呈 木村正 男氏

選外佳作（五篇）記念品贈呈 竹崎知 十氏
同 森田嘉一氏 中田 浩氏

て、ホテルなどの各種附属施設をつくる夢が実現されるとしたら、観光芦屋は名実ともに世界の芦屋としてすばらしい観光文化の花を咲かせることが出来るのである。

以上重点的に國際観光の立場からのみ観光芦屋を考えたのであるが、國內観光のためには芦屋海水浴場の改良完備、高座の湖——ロツクガーデン、芦屋谷——奥池など主要ハイキングコースの道路、道標の整備、奥池、芦屋谷、高座谷、花原のキヤムプ場設備、花原雷住友山岳会小屋の再建など、なすべき多くがあることを附記する。

国勢調査!!10月1日

★調査事項(1)世帯の種類(2)住居の種類、(3)住居の所有關係(4)働きの種別、(5)世帯員氏名(6)続柄(7)当日の在否(8)性別(9)生年月日(10)出生地(11)就業狀態(9月24日—30日)(イ)収入仕事をしたか(ロ)就業時間(ハ)仕事をしないのは(A)無いのか(B)探していたのか(C)しない理由(通学、家事等)(ニ)仕事の種類(ホ)(事業上の種類)勤め先の名称(ト)従業上の地位(12)各人の(イ)在学か否か(ロ)在学年数(ハ)國籍又は出身地(ニ)引揚者か(ホ)配偶關係(13)結婚女子の(イ)初婚か(ロ)結婚年数(ハ)子供数★一時現在者の記入★この調査内容は統計目的以外に使われない★個人の秘密は絶対保持される★申告の結果は貴重なる資料となる★調査は事実通りを正確に★

皆様凡ての御協力を

★モナコ風よりもスイスのな性格に★獨創的な見解の第一席

同 木村信忠氏 田中忠雄氏

第一席佐藤俊夫氏の論文は、観光の本質に対する深い認識と、廣い視野から生み出された優秀な論文である。同氏は、まず現代世界観光客の目標は、古い文化財や自然美の鑑賞の外に、その地方の住民や生活を基調とした観光都市であること、換言すれば、観光事業とは旅行者と地元の人との人間の關係の總體である(グリユックス教授)点より、芦屋は國際觀光都市としての素質ありと断じ、しかもその素質の自覚と同時に、不断的努力と反省とを市民に要請している。特に観光事業の施策を誤るならば、市民の精神を娯婦的根性に墮落させる危険があることさえ警告し、觀光都市としての発展の基礎には、周到な市民教育の浸透が必要であることを強調しているのは、ゆきといた態度である。従つて同氏は、観光芦屋の構想の底には、常に深い知性が流れていなければならぬと断じ、モナコ風よりもスイスのな性格を育成することが、観光芦屋の眞面目であると結んでいゝる。その他個々の施策については詳述を省いているが、隨所に独創的な見解があり、全体としてまとまつていゝるのみならず、將來を通じ永く指針となるべきものと思われるので、敢て第一席に推した次第である。(審査員・川越清)

芦屋郷土誌 (二)

市立図書館 細川道草

目次つゞき

- 第一節 陸上の交通
- 第二節 海上の交通
- 第三節 通 信
- 第四節 住 民
- 第一節 芦屋の古民族
- 第二節 住民の増加発展
- 第三節 人情と風俗
- 第四節 年中行事・俚諺等
- 第五節 保健と衛生
- 第五章 政 治
- 第一節 太古——奈良時代
- 第二節 平安時代——室町時代
- 第三節 江戸時代
- 第四節 明治以後
- 第五節 芦屋市の行政
- 第六章 教 育
- 第一節 寺子屋教育

○風光うるわしい海を持つ芦屋は、都に近いため都人士のあこがれの地であつた。そして遊園地として、又散策地として、住宅地、さては隠棲地としてなど各方面に利用された。平安時代の「芦屋の里」はそれ等の人々によつて多くの詩歌や物語になつた。我が國中世文化の一大中心地となつた感がある。第五篇はこれらの和歌を中心として、歌書を探つて見ようと思ふ。

- 第六編 神社・佛閣等
- 第一章 古墳を尋ねて
- 第二章 神 社
- 第三章 佛 閣
- 第四章 屋敷あと
- 芦屋には古墳が多い。之等を探ねたり、アシヤ人の信仰の中心である神社や佛閣に詣でてその由来をきくのもよい勉強である。又阿保親王、在原業平、猿丸太夫等、歴史上の人々の遺蹟を探り、謡曲で名高い藤栄、月若、公光、さては鶴塚等の傳説地も見よう。
- 第七編 名 所・舊 蹟
- 第一章 山手方面
- 城山の今昔。ロックガーデン。お多福山と花原。天神山のつづじ。高座の瀧。芦屋川溪谷と奥池。
- 第二章 海岸等

第二節 学校教育

第七編 財政

○第三編では自然を如何に利用し之と如何にとり組んでいるかという關係を見、この自然がどんな住民を生み、その住民が如何に発展したか等々を見たい。この編は郷土誌の最も重要な部分となるであろう。

- 第四編 芦 屋 史
- 第一章 石器時代史
- 第二章 金石併用時代——奈良時代史
- 第三章 平安時代史
- 第四章 鎌倉・室町時代史
- 第五章 江戸時代史
- 第六章 明治大正史
- 第七章 昭和時代
- 第四編では石器時代から現代までの芦屋の歴史を時代順に研究しよう。これは廣い範囲になるから、こゝでは芦屋に關係ある一部分を捕える事とならう。
- 第五編 芦 屋 と 歌
- 第一章 萬葉集と葦屋
- 第二章 中世の歌集中より
- 第三章 江戸時代以後の歌

芦屋浜と海水浴場。遊園地所々

第三章 古戰場を尋ねて

○第七編は郷土のほこりとする名所舊蹟を尋ねて見よう。芦屋は土地そのものが名所であり舊蹟であるが、その中でも特に目立つた箇所をとり出して記すこととした。

- 第八編 郷土の民話・傳説
- 第一章 葦屋処女物語
- 第二章 金兵衛車
- 第三章 七右衛門倉
- 第四章 鹽見櫻と汐見松
- 民話や傳説はその土地に深く根を張り、成長したもので、宗教的、恋愛等的が多いが、その何れも皆言い知れぬなつかしさを與へる。芦屋にも沢山あるであろうが私はあまり知らない。皆さんからの援助でこの篇の賑うことを期待します。
- 第九編 雜 記
- 第一章 郷土の地名の研究
- 第二章 郷土の動植物
- 第三章 郷土人物傳
- 此の編では郷土の地名について出来るだけ詳細に知りたい。もと精道村時代の字の名等は色々いわれがあることと思う。私は地名を研究することに深い興味を持つてい

る。しかしその実態を知る事は容易でない。芦屋永住の方々の御教示を仰ぎたい。又郷土を代表する人物傳も欲しくて題目をかかけておいた。郷土の動物や植物を採集し蒐集することは、生きた材料を捕えてのよい研究資料である。せい／＼集めて欲しい。

第十編 附 録

芦屋郷土誌研究資料の紹介。

第一編 隨 説

第一章 あし・よし談義。

或る夏の日の夕方芦屋駅に下車した私はあふれる乗客と共にプラットホームに降りた。駅員が威勢のよい調子で、「あしや……」と連呼している。その時私の前に行く中学生らしい一人の少年が低い声ではあるが、「よしや……」とこれに調子を合せていた。私はニツコリした。そして何であしやをよしやと云うのであろうかと思つた。あしといひ、よしといふのはどんなわけのものか、少ししらべて見よう。

(1) あしは悪しとも通じるので之をきらつてよし即ち善しといふ。

○円珠庵雜記に、(契沖著、文化九年刊、隨筆二卷)「おしをよしといふのは俊成卿の住吉社歌合を判じてあしといふのがゆゆしければよしといひ……」

浜萩。あしは難波の方言ではまをぎをいふ。俗には古より蘆をよしとのみいひ傳へてあしとは言はぬなり……津の國や難波に生ふるよしあしは

言ふ人からの言の葉ぞかし 新千載

(3) あしは、はしであり、はじめである。

○日本釈名(貝原益軒著、三卷、元祿十二年刊)

「あしははしなりはじめなり、草木のはじめなり……」

○東雅(新井白石著、二十卷、享保二年刊)

「天地開闢の初に形葦牙の如くにして……また此の國を葦原の國とも云ひしと見えたれば、我が國にして凡そ物名の聞えしこれより先なるはあらず……」

○倭 訓 葉。

「あし。詩は初めの義なり、開闢の初めまづ生じたるものは葦なり、よつて此の國を葦原の中つ國といふなり、白き條あるを難波あしといふ……」

○日本植物圖鑑。

「和名あしは葦し稈の变化せしものならん、はしは稈を指す……」

(5) あしは、あをいで、よしは、よしはの意。

○和漢三才圖會。(寺島良安編、正徳五年刊)

「按蘆和名阿之青之和訓、葦俗云與之弱之和訓、

○倭訓葉(谷川士清著、九三卷のうち十三卷までは安永六年(二四三七)刊

「葦をよしともいふはあしの反語なり……」

○日本植物圖鑑(植物学の權威牧野博士著)

「あし一名よし古名はまをぎ……よしは元來本來の名稱に非ず、あしを悪しと附会し之れに對し縁起上之れを善しとなせしに外ならず……」

○大 言 海

「あしの悪しと聞ゆるを忌みてよしとも云ふ。わろし、わるしは善しの反……」

「よしは葦の惡に通ふを忌みて善と反に云ふ語、あし(芦)に同じ……」

(2) 所によりてあしといひ又よしといひ

○住吉社歌合跋(俊成)(嘉應二年十月九日攝津住吉神社頭でもよろされた歌合)

「難波わたりにはあしとのみいひ東の方にはよしと云ふ……あづまの人の言葉なり。」

汀なる汐蘆に紛ふ浜萩は

よしとぞ見ゆるよさの浦人

○古今要覽。(屋代弘賢編、五六〇卷、文政四年より天保十三年に至り編さんしたもの)

「物の名も所によりてかかはるなり、難波のあしは伊勢の

以上のようにいろいろな説があるがあしとよしとは区別なく同じ植物であり、天地の開けたとき先づ生じた最も古い植物である。關東の人は多くよしといつたらしい。

第一節 あし。よし。

○あしね。芦の根。

世の中に多くある植物の中であしほど雅味ある面白い植物は少いと思ふ。其の根は根強く地中に入り繁殖力の盛んなことは驚く程で、我が民族の表徴とも云へよう。漢方ではこれを嘔吐の薬とする。大古の芦の根の化石がほつぽつ発見されるが、近江の國人木内石亭は芦根化石を秘藏していた、又打出史録にも大昔の芦根らしいものが地下深くから時々掘り出された事が記されている。

深くのみ思ふ心は葦の根の

わけても人にあはんとぞ思ふ 後撰集

○芦 の 芽

早春あし根から生れる芽は円錐形の錐の形のかわりらしい薄紫色の筍である。あしのためこのあしのきり、あしのもの、あしかひ等いう、食用にもなる。

芦の芽や水尾ひろげし渡し舟

水底に映れる空や芦の角

海原やなみに漂ふ声かびの

梅 史

樂 天

かひある國となれるかしこる

新千載

○わかあし、若芦

あしの筍はやがて春の陽を吸うてすく／＼とのび、互生した緑の葉をつけ風にゆられる若葉となる。

若芦の葉に潮満ちてそよび哉

虚吼

若芦や屋根ふきかへて鴨の小屋
夕月夜汐みち來らし難波江の

春稍女
新古今

○あしぶえ。

あしの葉を巻いてつくつた笛で昔ながらの管楽器である。今でも田舎の田道を行くとよく聞くのは勇しい。

○青 芦。

やがて夏になると芦の大群落が海岸や沼沢河辺に我が物顔に茂つてくる。あしたづは今は見られないが、行々子（ヨシキリ）ががん高い声でなきさわぎ、よしごね（五位サギ）がつくねんと立つて居るすがたはよく見かけられる。あしがにが小さい穴をつくりよしもぐりが足音に引けて行きよしのほりが卵を産むのもこの頃である。

片舟を女こぐなり芦茂る

月斗

青芦に波打たせ行く小舟かな

吐牛

葦切やなれて芦屋の人の耳

吳仙

よしきりや本庄筋へ御用船

沾炭

○あしの花。蘆花、蘆の穂架、

た。その時憲は「母、家にあるときは一子寒し。母、家になき時は三子寒からん」と言つて父をいさめ、その怒りをといた。それから関子の賢は天下に知られた

芦の穂やあんなところにこんな家

一茶

干上りて吹きとぶ芦のほわたかな

桃從

秋風に潮みちくればなには江の

重之集

あしのほよりぞ舟は行きかふ

夫木集

難波がたあしの花咲く浦風は

夫木集

浪にも消えぬ雪ぞ散りける

○枯あし。

こがらし吹き、枯芦風にそよぎ、水かれた野川に節高な枯芦が老將の如く硬く風に立つのもよい風情であるが、見渡す限り枯芦の海に碧空からさんと日光の落ちてくる眺めは又一入である。

枯芦や難波入江のささら波

鬼貫

枯あしや朝日に氷るはや（魚）の顔

惟然

○あしすだれ。よしす。

三八通りに竹屋さんがあり、おばさんは晝夜兼行でよしすをあんでいる。おばさん長いきれいなあしですな、どこからきますか「え、中々このあたりのものではありませんよ、遠い江州の方からとりよせるでな……」さう、なるほどな」古い本に攝津五領村鵜殿に生ずる芦は特別大きくて

秋日稗頭に高く円錐形の穂花をつけ、始めは紫がかつているがやがて大きな白いわたとなる。徳富蘆花は芦の花を好み雅号とし、その著「自然と人生」の中に名文をかいてゐる。

「東京近郊にて洲崎より中川尻のあたりにかけて一帯の蘆洲なり。秋の頃汽車の窓より眺むれば茫茫たる色は即ち蘆花の雪なり……堤外二三里が程すべて茫茫たる芦花洲にして、遙かに洲外に一條の碧と帆影とを認めて海の所在を知るのみ、一脈の水路此芦花叢裡を押分け廻りめぐりて遠く海に通ず、潮退けば穴だらけなる干潟あらはれて泥だらけなる芦根に小がにはひありき、潮満ち来れば億萬限りなきの芦花影を倒にして水に映じ、漁歌聲思ひがけなき辺りに起ることあり……」

昔支那の孔子の高弟に関子騫という人があつた。早く実母に死に別れ継母に育てられたが、その後継母には二人の子供まで出来たので、継母は騫をにくみつらくあつた。父は之を知らなかつた。或る時父が他出しようとして騫に車を引き出させた。冬の寒い朝のことであり、騫はブル／＼ふるえていかにも動作が常でなかつたので、父はあやしく思つてその襦物を解いて見た。するとその中には芦のわたが入つていた。二人の子を呼び出し衣をといて見ると眞の綿がどつさり入つていた。父は怒つて母を難縁しようとし

その稗を以てヒチリキの舌をつくるといい、又淀川辺に生えるものは生質かたく、芦すだれは多く伏見あたりで編んで高瀬舟につみ京へのぼす。京中にはなし」等かいてあるが、さても琵琶湖の周辺の低地にはこんな見事なあしがあるのかなと感心した。徒然草に「諒闇の年ばかりあはれることはあらじ、倚廬の御所のさまなど板敷をさげ葦の御簾をかけて……」など見えている。

かけたに思はぬ宿のあしすだれ

隆信集

みすに馴れけるしるしとぞ思ふ

年経たるあしのすだれのひまをあらみ

爲忠

もりくる雪の袖はぬれつつ

○あしぶき。あし垣。あしのや、

芦で屋根をふいた家をあしぶきといい、あしで垣したらあし垣であり、あしでこしらへた飯小屋をあしのまろや、あ

しのや、あしや等いう。

訪ふ人もなきあしぶきの我が宿は

後拾遺

降る霰さへ音せざりけり

人知れず思ひやなぞと葦垣の

古今集

ま近けれども逢ふよしのなき

芦の屋のかりねの床のふしのまも

新後撰

短く明るる夏のよな／＼

(以下次号)

芦屋市教育委員会について

新しく生れる

一、誰が誰のためになるか
 (答) 芦屋市民が、市民自身の幸福のためにつくるのです。

二、なぜなるのですか
 (答) 教育が不当の支配に服することなく、直接全市民に対して責任を負うという自覚のもとに、公正な民意に基づき、芦屋の実情に即した教育行政を行うために設けられるのであります。

三、どんな権限をもちますか

(答) 芦屋市における教育行政の最高責任者であつて、一應市長の手をはなれて、従来縣廳や市役所で取扱つていた教育、学術、文化等に關する事務を管理し執行します。但し財源については、独立のものを持つておりませんし、又予算も市会で議決したものを執行するのであります。

四、どんな仕事をしますか

(答) 主なものをあげると次の通りであります。
 1、学校、図書館その他教育施設の設置、廢止、建築、土木、設備等に關すること。但し工事の施工は原則として市長へ委任することになつております。
 2、教員や教育職員の人事、給與、研修等に關すること
 3、予算の見積書の作成提出(市長へ)及び予算の執行に關すること

下の職員や学校長に代行させることが出来る仕組になつております。

七、いつ選挙がありますか

(答) 来る十一月十日縣の教育委員の選挙と同時に進行されます。

八、選挙権、被選挙権はどうなつていますか

(答) 1、選挙権 日本國民たる年令満二十歳以上の者で三ヶ月以來芦屋市内に住所を有する者
 2、被選挙権 選挙権を有する者で年令満二十五歳以上の者

となつております。尚選挙は公職選挙法にもとづいて選挙管理委員会が行います。

九、いつ成立しますか

(答) 来る十二月一日成立します。

十、いつから選挙の準備がはかまはれますか
 (答) まず市役所、市会、その他關係者をはじめ市民各位が、自分の愛児を誕生させる氣持になつて、心と力を合

わせることが最も大切なことです。
 次はよい立派な人を選んで立候補していただくこととす次はその候補者の中で一番立派な人に投票することとす棄権や不正投票は子どもたちへの愛情の放棄であるといわれても仕方ありません。

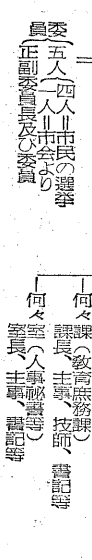
要するに、よい日本一の教育委員会を作ろうという意氣込みが、全市民の胸にみなぎることを念願します。

十一、立派な委員を選挙したいのですが……

4、教科内容、教科書、教育指導等に關すること
 5、社会教育に關すること
 6、就学、教育調査及び統計その他教育事務一般に關すること
 五、どんな組織になつていきますか

(答) 芦屋市のものは、委員会が成立する十二月一日にならないときまりませんが、一般的には大体次の様なものでしょう。

〇 教育委員会—〇 教育員—〇 事務局—



六、仕事のやり方はどうですか

(答) 委員は毎月一回定例の会を公開でひらいて、教育上の諸問題を審議決定します。
 決定しました事項は教育長をして執行させます。つまり教育長は委員会の指揮監督をうけ、委員会の処理するすべての教育事務をつかさどる義務と権限をもつてゐるわけです。

尚教育委員会の教育事務の執行権は会全体として持つてゐるのであります。会自身が執行するとなると実際の事務遂行上いろいろの不便もありますので、之を教育長へ大幅に委任することができ、教育長は更にこれを

(答) 行政というものは有機的な廣がりをもつものでありまして、孤立的な独善では決して教育行政の進歩発達はありません。ですから常に市民の擔稅力や、他の行政との調和を考へて芦屋市民全体の幸福のために、大処高處から物事を判断出来る人であると共に教育を理解し人格高潔、公平清廉、教育を通してよく全市民に奉仕し得る第一流の人物の出馬を希望してゐる次第です。

十二、委員は何人ですか、又任期は何年ですか

(答) 委員の定数は五人です、その中一人は市會議員中から市会で選定しますので、他の四人を市民の直接選挙によつて選出します。

今回の当選者の任期は得票の多い人から二人が四年、次の二人が二年となつてゐます。

十三、今の教育委員の職員や市立学校幼稚園の教職員はどうなりますか

(答) 教育委員の部課は教育委員会が所期の活動が出来ますよう最少限度の拡充が行われませう。
 尚現在の市立学校、幼稚園の教職員や教育委員の職員は法律の規定により同級同俸給で芦屋市教育委員会所管の職員に任命されたものとみなされますので、変革にあつても市民に御迷惑のかゝらないよう継続して執務致します。

天は人の上に人を作らず

人の下に人を作らず (福沢諭吉)

(教育員)

芦屋の先人には面白人があつて、橋名、町名に昔由縁のあつた人名などもつて来て、公光町とか業平橋、月若橋など大いに愉しいが、今度「愉しい」などいつていられなくなつたのは、市制十周年記念に宝塚の卒業生達、藝達者踊達者の連中によつて舞踊劇を公演することになり、その出し物に特に「業平」と「月若」を選んでラポトラリイを課せられたからである。

業平は敢て身許調べをする途もない有名人だが月若の方は出典が謡曲だけ何の史的根拠もなく、その謡曲も「藤栄」一つきりで而も知っている人が寡い。最明寺時頼が雲水僧に化けて諸國遍歴中、芦屋で月若という少年に逢ひ、それが叔父の藤栄という者に七百余ヶ町の所領を横領されているのを聞き取戻してやる。

という筋だが、既に謡曲そのものが一つの劇的に構成されているとはいへ、初めの出で既に最終迄の筋が判つて了つていた、水戸黄門廻國記の様に終ひに名乗つてがらりと形勢が逆轉するといつた興味もない。

しかし月若にはこの以外に何にもないのだからやはりこ

業平・月若

—二つの舞踊劇新作に就く—

桐山宗吉

うした筋を追うより仕方なく、そこで能樂の雰囲気を出すために、装置を松羽目即ち歌舞伎道では「完成」とか板松とかいう能舞台形式にし、鳴尾の長者なる男をその娘として藤栄の貧婆さが財的だけでなく色模様も加え、月若の従者も乳母に変えて、華やかにすると共に、最明寺時頼を幕切近くに出し見ている人の興味を深くせしめた。

「八撥の舞」とか「演遊び歌」とか、謡曲中の名句をも多少採入れはしたが、何しろ一切洋樂によつて日本舞踊で演ずるのであるからそこに古典的の味を出すのに作曲者や演出者又撰付者の一方ならぬ苦心が要る。

能樂の味、狂言の味、そこへ新舞踊としてのベエソス、重厚さの中の軽妙な踊り、そういつたものの渾然たる融けこみ、音樂器を主調に日本鼓、納管や篠笛のハアモニイ、こう考えてゆくと仲々むつかしい。いわゆる「ヅカ調」をすつかり離れている、その舞台の構成美がどういふ形で表現されてゆかか、作者としての興味と期待が大きい歌である。

業平という色男はこれも有名な様で、その一生は詳かに

されていない。芦屋に墓のある阿保親王即ち平城天皇の第五子、六歌仙の一人、清元長唄、琴唄いろいろ歌われミスター日本の標本の様な美男、采図や官途の履歴書ははつきり判つているが、さてその奥さんは何という名だつたかになるととんと史的に明白にされていない。



師尚と
いう子が
内親王齋
宮悟子と
の間にで
きたもの
だつたり
清和天皇
の后とな
つた藤原
の高子
(タカイ)

コ)が未だ入内せぬ前に頗る宜しき仲だつたり、その人を負ふして匿落ちしたりして、敵派不良公卿であつたといえよう。

「伊勢物語」といふ本は、学説として「業平の日記」或

はそれを女歌人伊勢が補筆したもの、その他いろいろありこれを出典として謡曲だけでも「雲林院」「小鹽」「杜若」「井筒」など、又近松ものにも「河内通」や「東下り」、長唄、清元と古典文学に活躍すること、当時のミス日本小野小町嬢と共に甚だ籍甚たるものがあるが、さて追がに高子の匿落ち一件の芥川や又はその仲のことは劇にも歌にも殆ど見かけない。

そこで今度その高子との恋物語を非常に美しい雰囲気にして舞踊劇化することを試みて見た、あらましの筋は櫻のちらちら散る頃、業平は父なる阿保親王が芦屋の偶居で病み臥すと聞き供の逸ひらを連れて急いで京を出立するが、道を間違へ洛西大原野ほとりへ出る、そこへ里の親切な嬢が現れ道の違つているのを教え業平たちと休みしている処へ、もう入内のことが決り逢えぬかも知れぬというので高子が侍女の早百合などを供に追跡うて来て、そこで別離の哀愁を舞う、嬢が氣を利かして酒麴をもつて来てそれに酔つた供の逸ひらが飄飄に踊りぬく。

という櫻の木の下の美しきくめの平安初期雰囲気「これはいゝ芝居になりますよ」と演出の松田斗志君が逆もハリ切つてくれたので、作つた方も大いに期待している歌であ

る。

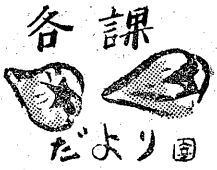
◆ 今度の公演は宝塚出身者といつても、舞踊達者な今は師匠をしている様な連中ばかり、巽友美子に二十の扉で知られている万代峰子それから東雲千鶴子に貫珠代、加茂みやじといった処を主流にその他もろもろの女優達そこへ水木流宗家の辰之君を初めその一門の名取達と、声楽に星影美砂子など数人、オーケストラを入れると三十人近い大一座である。既に「テアトロ・タカラズカ」として数次の公演をやつてるのでその演技のほどは保証付きである。

◆ 筆者、邦楽舞踊の研究者というので、とかくの講座など受持たされ、又歌舞伎や舞踊は屢々見る機会に恵まれており、そこで常にいうことは舞台での所作、舞踊は普通の踊がいくら達者でもシマリや型は別にあつて、その点藝者の温習会などいくら巧くつてもサテという場合の型が崩れたり、キマリが不熟だつたりするが、道が宝塚、殊に十年前のそれは一應舞台へ出し多くの見物から観望料を頂く藝人として、幼い時からびしびし稽古をつけてある、いわば歌舞伎俳優の小形だから、その点で今度の「業平」「月若」も作者の意図以上に演り科して呉れることと安心してゐる。というよりこの連中故に新作の意欲も旺になつた訳でも

ある。

◆ も一つ出す「処女塚」は去年の作だがやはり古い「芦の原」に傳わる悲恋物語で、それへ賑やかな酒席を入れてある。
芦の原の薨名日処女を慕う薨原小竹田男と珍努の益良男の二青年が、どちらへ麗ころにも余りに似た業と方に、処女は悶えて川に身を投げて了う、その跡を追うて二青年も共に死ぬ、今御影と味泥に塚が遺つているがこれは謡曲「求女塚」鷗外博士の「生田川」その他菊池寛の長篇の冒頭にも用ひられてゐる。

この古い傳説を第一幕に、続いて文化文政頃、塚へ詣て縁結びを祈る若い男、若い女の群、酒造の首尾を願う但馬の杜氏、丹波の杜氏のお國振踊、酒造り唄。そこへ酒造家の美しい娘とその嫂の絡む美しい振り事、これは既に一度公演して大変な好評を博したものである。
洋樂を地にしての日本舞踊は今まで相当行われた、そして何となくちぐはぐになる缺陷、それは作曲が洋樂めいて日本舞踊に見慣れ聞き慣れた日本のメロディにマツチしなかつた憾みがあつたからといえる。それを日本のメロディに、洋樂器に日本樂器中の打樂器を交えて試みたテアトロ・タカラズカはその点で一度成功してゐる。



上水道の拡張を!!

水道課長 木村 信忠

● 今年も数度に亘る天恵の慈雨と、市民各位の節水への御協力により、時間給水一步手前まで行つた上水道が断水の危機を切りぬけ得られた事を皆様と共に喜びたいと思ひます。然し何故市の上水道が毎年夏になればかゝる苦心をし不安な状態に陥らねばならないか？勿論、根本的には水が足りないからであります。然も果して水は足りないからか。雨が降つた後とか、夏季以外の季節には芦屋川には水が流れ海へ注いでいるではありませんか。この水を必要な時に使用する爲に貯えれば時間給水や断水におびえる事もなくなりませう。確かにそうですが市の

で、その間、戦災を受けたし市民の文化程度も向上し又建築戸数も増加、各種施設もどん／＼出来るので浄水場施設の能力は既に極点に達し、無理な送水をしてゐる状態にあることも直視して置かねばなりません。市の水道は今や拡張の時期に際会してゐるのであります。水道課と致しましては、以前から水源調査をすゝめ研究の上、拡張基本計画案も出来上つていて一部実地測量にもかつてゐます。構想は流れ去る水をためる貯水池案で、芦屋川ばかりでなく高座川の水も併せ取入れる計画ですが、未だ詳細に亘つて発表する段階には来て居りません。というのには拡張に要する莫大な額に上る事業費の財源措置を考究中の爲

です。然し何とか早急に解決して計画を進めなければ毎年時間断水の危機にさらされる訳であります。いやそのみならず上水道の確立なくしては國際觀光都市としての構想も、文化住宅都市も実現不可能であり、又ヨット・ハーバーも水族館も市民プールもその他諸々の計画への送水も出来ない相談なのであります。どうか現実を把握され市の上水道拡張への關心を深めて、皆様の御支援をお願いする次第であります。
● 六麓荘地区の皆様には、この度貯水池復舊のため色々御迷惑をかけて居りますが、先頃市議会の總務建設兩委員も視察され、二百数十万円の工費をかけて漏水防止工事を実施する運びとなりました。出来る限り早く、且つ最善の工法を持つて完成する予定ですから尙暫らくの御辛抱をお願いします。
● 集金制の実施について——水道使用

料金については従来納付制をとつて
 いましたが、御不便の向もありその
 後の社会情勢の変化から他市の状況
 も比較研究の上、本市に於ても九月
 から集金制とする事になりました。
 係員が大体二ヶ月に一回の割で訪問
 して集金致しますから何卒御協力下
 さい。——係員は市の身分証明書
 を持参していますが、少しでも御不
 審の点があれば直ちに水道課（電二
 ○九七）へ御照会下さい。尚、集金
 制実施に伴い、整理上今迄の料金滞
 納の方は至急に納めていただかない
 と條令により停水処分を行うことが
 あります故御注意下さい。
 集金の順序は只今の所、準備中のた
 め種々疑問の点があると思ひます
 が、第三期分以降は左の通り計画に
 基き実施致します。即ち集金開始日
 第三期分（八、九月）九月十五日
 第四期分（十、十一月）十一月二十日
 第五期分（十二、一月）一月二十五日

第六期分（二、三月）四月一日
 であり、その順路は左の通りで一ヶ
 町内概ね三日間を要するとして計算
 せられれば、集金日の予定が算出で
 きることになります（但し昭和二十
 六年三月迄には多少変更ある見込
 み）

- 集金予定順路
- 第一区 大東、南宮、浜、西蔵、若宮、春日、小槌、楠、親王塚、翠ヶ丘、岩園、朝日丘、六麓莊、
 - 第二区 宮川、宮塚、上宮川、大原、東山、東芦屋、奥山、山手、松ノ内、船戸、業平、茶屋、大榎、公光、精道、
 - 第三区 浜芦屋、松浜、伊勢、吳川、竹園、平田、川西、津知、清水、前田、月若、西芦屋、三條南、三條、山芦屋、西山、

七月廿五日 運動場設
廿七日 置方縣
廿八日 審管理
廿九日 委員選
八月一日 設委員
會、合併委員會、ユネス
コ協力會（佛教會館）
土曜會（市長と各新聞社
とのインタービュー）
縣主催弘報事務研修會（
佛教會館）
阪神上水道交渉委員會
建設委員會
警察協議會
横尾通産相歡迎會、阪神
上水道
七日 阪神四市總務委員會、芦
屋市人権擁護委員會同
會
八日 警察組合會議、總務委員
會
十日 教育委員會、縣下市長會
（縣會議事堂）
十一日 觀光懸賞論文審査會（佛
教會館）

八月一日 伊丹地区柔道對抗試合（
芦屋署）
十三日 市會協議會
十四日 市會、縣總務委員小型自
動車予定地を視察
廿一日 市會、競輪委員會
廿二日 小型自動車競技場の件市
長出縣
廿三日 特別委員會
廿五日 教育委員會
廿六日 市會
廿八日 岩園小学校舎竣工検査
三十日 企画委員會
九月一日 打出、芦屋共有財産管理
委員會
三日 ジェーン颱風來襲、当市
も相当被害あり。
五日 市職員採用試験
八日 文部技官、縣土木委員、
縣調査委員 權災狀況視察
のため來廳
十一日 建築委員會
十二日 松茸山入札
十三日 市會、企画委員會
午後三時三笠宮殿下權災
地慰問に御來廳。
十四日 參議院建設委員來廳

図書館分類主編表 (二)

市立図書館

- 前号で○○○總記から六○○○産業ま
 で掲載したので本号はその続きをのせ
 ます。
- 七〇〇 藝術
 - 七一〇 彫刻
 - 七二〇 繪画、書道
 - 七三〇 版画
 - 七四〇 写真、印刷
 - 七五〇 工藝美術
 - 七六〇 音樂舞踊
 - 七七〇 演劇映画
 - 七八〇 運動競技
 - 七九〇 遊藝娛樂
 - 八〇〇 語学
 - 八一〇 日本語
 - 八二〇 中國語、
東洋語

- 八三〇 英語
- 八四〇 ドイツ語
- 八五〇 フランス語
- 八六〇 スペイン語
- 八七〇 イタリア語
- 八八〇 ロシヤ語
- 八九〇 その他諸國語
- 九〇〇 文 学
- 九一〇 日本文学
- 九二〇 中國文学、東洋文学
- 九三〇 英文文学
- 九四〇 ドイツ文学
- 九五〇 フランス文学
- 九六〇 スペイン文学
- 九七〇 イタリア文学
- 九八〇 ロシヤ文学
- 九九〇 その他諸國文学 以上



チチアンの死

ホフマンスタール

かくて闇黒の軽き息づかいの如く
鬨の香りをわが額の辺に漂わし
白き波うつ裳裾のごと

あるは温かき手の触るゝごと
そはわれにみゆ

ま白き生絹の月の光あび

情痴の蚊の舞い

池の面に柔らけき光おち

あなたこなたに水ささやき又輝やく

今我は知らずその白鳥なるや

浴みする泉の精の白き四肢なるやを

かくて女人の髪の甘き香りの

蘆薈の香りとまじれるごと

薔薇の赤き音提琴のごとく

あくがれとしまより織りなされ

アカシヤの軽く注ぐ

泉の音、花の雪

かくてそこにありしもの一に融く

余りにも力強く重き華やかさに

意味はもだし言葉は意味を失う。

(西田詠)

編集後記



弘報の当然もつべき

使命と性格とを保ちつ

ゝ、他方に於てなるべ

く柔かい、興味深い内

容を盛ること、これは

いつに交らぬこの種刊

行物に課せられた困難

な問題である。編集者の苦心も茲にあ

る。

紙面を軟かくする方途にも種々あろ
うが、編集技術などはむしろ末節枝葉
で根本はどの程度まで藝文趣味を浸透
させるべきかにある

併し弘報本来の使用を顧りみると
き、藝文趣味は只或る可能なる限界内
に於てのみ許さるべきものと考へる。

本号には佐藤氏の入選雄篇を以て巻

頭を飾つた。又細川氏の芦屋郷土誌は

未だ序の口で完結迄には今後数年を要

する長篇となる見込みである。

桐山氏の業平、月若も有益な文字

だ。それに一寸西歌趣味を配するつも

りで独逸の詩を訳出してみた。

(西田生)

あしや 第九号

毎月発行 価格 十円 送料 六円

塗料共 半年分 九十六円

昭和二十五年九月十八日印刷

昭和二十五年九月二十日発行

編集人 松岡正夫

発行人 猿丸吉左門

大阪市北区堂島上二ノ二五

印刷所 大阪蘆屋印刷株式会社

芦屋市精道町九三

発行所 芦屋市役所

銀杏葉（訳詩）	1
観光芦屋の構想	佐藤 俊夫…2
観光懸賞論文選評	川越 清…13
芦屋郷土誌（二）	細川 道草…14
国勢調査	19
芦屋市教育委員会について	三枝 秀行…20
業平、月若	梶山 宗吉…22
上水道の擴張を	木村 信忠…25
市政メモ	26
図書分類主網表（二）	27
チチアンの死（訳詩）	28
編集後記	28
表紙、カット、挿画	柴谷 幸二郎

昭和二十五年九月十八日印刷
昭和二十五年九月二十日發行

芦屋市弘報

あしや

第九号

頒価十円

典雅で個性的な服装を!!

新しい感覚と輝く知性をもつ

洋裁の御研究をお勧めします

★ 課 程 授 業 修 業 年 限 入 学 資 格 ★

本 科	昼間	9時—3時(週2回)	修業年限 1年	入学資格新制中学卒 又は同等以上
	夜間	6時—9時(週2回)		
研究科	昼間	9時—3時(週1回)	修業年限 1年	舊制高女又は新制高 校卒以上で洋裁に關 する知識あるもの
	夜間	6時—9時(週1回)		
速成科	昼間	9時—3時(週1回)	修業年限 6ヶ月	入学資格本科に同じ
	夜間	6時—9時(週1回)		
日曜科	昼間	9時—3時(週1回)	修業年限 1年	入学資格本科に同じ

★授業内容★
 {各科共通—製図、実習、理論、手藝、社会
 科外(選択)—染色、編物、割烹、パレー、
 音楽、文化、茶道、華道、書道、英語

★入学金 授業料

入 学 金	—200円	○科外講座は随意	
授 業 料	昼 間 月	400円	選択として履修
	夜 間 月	300円	科目毎に実費徴
	日 曜 月	250円	收する

★その他

1. 通学定期券の購入証明書交付
2. 学生割引証(國鐵全線5割引)交付
3. 卒業及修了證書の授與
4. 入学願書及び入学案内書本所にあり

平 林 淑 子 洋 裁 研 究 所

芦屋市茶屋之町70(芦高北)